

No7

下野市立石橋中学校



校長室だより

スローガン ～生徒も先生も、自ら輝く学校～

目指す学校像

『未来を、たくましく生き抜ける生徒』の育成
キーワード「自立・貢献・創造」

令和3年9月1日(水)
発行者 田熊利光



石橋中ホームページQRコード

セカンド・ステージ開始に当たり

長い夏休みも終わり今日から、セカンドステージが始まります。夏休み中には、県大会・関東大会がありました。県大会に応援に行きましたが、皆さんの全力プレーに元気をもらいました。関東大会に出場した選手の皆さんの頑張りも、顧問の先生から報告を受けました。本当によく頑張りました。また、吹奏楽部が地区予選を勝ち抜いて県大会に出場しました。8月9日に行われた県大会では、素晴らしい演奏を聞かせてもらい感動しました。

ほとんどの部が、2年生を中心としたチームに変わりましたが、3年生が示してくれたことを受け継ぎ、各部の目標に向かって新たな気持ちで頑張ります。

また、セカンドステージもファーストステージ以上に、新型コロナウイルス感染防止対策徹底しながら、様々な活動に取り組みしましょう。授業もクラスの仲間と支え合って、レベルの高い課題にも挑戦し、全員が成長できるよう頑張ります。とちぎっ子・全国学力学習状況調査の結果も返ってきましたが、とても良好でした。この調子で、石中生全員で伸びて行きましょう。

2020東京オリンピック・パラリンピックについて

さて、夏休み中にはオリンピック・パラリンピックが開催されました。みなさんもテレビの前で観戦し、応援したと思います。皆さんは、オリンピックの様子やオリンピックアンを見て何を学びましたか。私は「**努力の尊さ**」「**人を思いやる心**」を改めて学びました。

一つ目の努力の尊さは言うまでもありません。選手たちがこの大会のために、どれだけの努力をしてきたのかということです。私たちの予想を遥かに超える日々の努力があったはず。この日を迎えるまでには、様々な壁があったと思いますが、彼らはそこから逃げずに一つ一つ乗り越えたからこそ、栄光の舞台に立つことができました。メダルを獲得することは確かに素晴らしいことですが、たとえメダルに届かなくても、今までの努力の過程に大きな価値があり、人としての大きな成長があると感じました。

二つ目の「人を思いやる心」は、様々な競技で、敵・味方関係なくお互いを敬い、助け合う姿が見られました。国同士が争っていても、一人一人の人間同士は、お互いを認め、高め合う仲間だということを見せてくれました。戦っている時は、全力で戦い、戦いが終わればお互いに健闘を称え合う姿に感動した人は多いと思います。

柔道の**大野選手**は「我々の姿を見て、何か心の動く瞬間があれば光栄に思います。」とインタビューで答えていましたが、大野選手に限らず、様々な競技のアスリートたちから、**勇気・希望・夢・感動**をもらえたと思います。

パラリンピックでは、様々な障害を乗り越えて、**人間の限界に挑戦**しているアスリートの姿に感動しました。初めからできないとあきらめるのではなく、**今ある機能を最大限に生かすという発想と残された機能を最大限に高めるための努力**に心打たれました。

また、補助具を付けたり、車いすを使用したり、ガイドと呼ばれる補助員が伴走したりするなど「**どうすればできるか**」という**前向きな発想**は学ぶべき点が多いと思いました。

「オリンピック」(オリンピックが持つ根源的な考え方・理念・哲学のこと)

「スポーツを通じて、若い人々がフェアプレーの精神の下に体と精神を鍛錬し、文化や国の違いなど、様々な差異を乗り越えてお互いに理解し合い、友好を深めて、世界の平和に貢献していこうとするもの」

※オリンピックの目的は、スポーツの世界一を決めることではなく、スポーツを通して心身の調和のとれた若者を育て、平和な社会を創造することなのです。

パラリンピックの目標

「パラスポーツを通じて、障害のある人々にとってインクルーシブな社会を創出すること」

柔道の高藤直寿選手の応援ありがとうございました！
皆さんの応援が力になり、日本選手第一号の金メダリストになれたと思います。